

<第3回学校づくり委員会会議録>

日 時 R8年 8月5日 午後6時～午後7時34分

場 所 朝日公民館

出席者 学校づくり委員17名

事務局 教育委員会：教育長、吉津教育次長、吉田子ども未来係長、吉津、小林

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 協議

事務局より連絡…資料「学校づくり委員会専門部会について」委員名簿右端 専門部会欄に部会名が記載されている方以外の委員の方は、専門部会所属希望調書により希望を書いて提出いただきたいと思います。本日の提出でも後日提出、電話での報告でも結構です。

(1) アンケート調査結果の説明と共有

- ・資料1、2、3に基づき、事務局 吉田より説明。

アンケート結果の情報のみでA Iで資料1、2、3を作成した。

資料1…質問項目ごとに多く出てきた言葉を大きく表示したり似たような言葉をまとめてエリアごとに分かれて表示されている。

資料2…どのような思いや願いがあるかまとめてほしいという指示の元、質問項目をまたいで様々な共通する点や課題などまとめてもらったもの。

資料3…取り上げられた回数が多いものが大きく中央に表示されている。少数の意見も小さく表示されている。

→特に意見等なし

(2) 熟議「特色ある学校づくり」

3つのグループに分かれて特色ある学校づくりについて協議

「小中一貫型小中学校に願う特色ある学校像」の言葉でイメージする言葉を付箋に書いて一人ずつ話しながら分類し貼りだし、分類ごとに見出しをつけてまとめていく。その後全体共有します。

委員①…小中一貫型小中学校に願う学校像とは何か難しくないか。只見ならではの小中一貫型小中学校で只見でこれはできるという強みは赤、課題は青にしては書きやすいのではないか。皆さん小中一貫型学校を皆さんイメージできるのか

事務局→強みと課題それぞれ出してよい。言葉として小中一貫型小中学校をイメージしづらければ新しい学校というイメージでかまわない。

委員②…難しく考えずにアンケートを土台にしてこれから作っていく学校のイメージを詰めていくという、イメージで書いていくとよいのではないか。

事務局→只見ならではの学校というイメージで書いていただきたい

～グループ協議～

Aグループ…只見愛に集約される。自然・地域の人と関わること。上下関係（じいちゃんばあちゃんと子どもたち、小学生と中学生等）ととてもいい上下関係がある。それから伝統文化

さらにハード面。自然環境を活かした、木のぬくもりのある校舎や自然環境を活かしたビオトープなど学べる場所。地域食材を使った給食とそれを作っている人との交流。しかしそれだけでなく基礎学力は必要なので授業をする教員にとってもいい学校、働きたくなる学校。小中学校版の山村留学を取り入れるなど町外の人との接する機会も増やすなども含めて、只見愛を育成していこうというのがAグループのまとめです。

Bグループ…個々を尊重した学びあい。チャレンジができ、安心感のような雰囲気とか学びの多様性とか、あとは具体的などころでは英語英会話スキル、音楽祭とか美術館、博物館、プラネタリウム、アートスペース、キャンプファイヤー、ナイトハイクとか様々な取り組みを学校でやっていく。地域も含めてこういった施設があると人が集まってくるんじゃないか？っていうところが上げられています。地域や異校種交流、年数回小中高校も含めて年間数回の行事をしたり地域のゲストティーチャーや地域の人が訪れやすい学校。町民プールもあったら高齢者の運動にもつながるか。

具体的な学校のイメージ、学校内にビオトープを作ったり自然と一体化した只見らしい緑色と白の校舎、光と風を感じる校舎など総称してブナの校舎のイメージが良いのかなと。地域の文化を繋ぐ学習も必要。バスだけでなく徒歩通学で地域の人とのふれあいも持たせたい。

Cグループ…ユネスコエコパーク、森林というところで土砂崩れ防止など防災教育防災の視点でも自然から学べるように。地域のゲストティーチャーからの学びという点でいわき市の大王製紙がペットボトルを再生して燃料にして原油高の影響受けていない。そういった企業の話聞くこと地政学的にも視野が外に向かって、また中にもどってきたりとおもしろいのかなと思う。

保育園から小学校、中学校、高校ってやっぱり繋がっていきますよね。外の世界を見るっていうこれからの進路を考えているところにも、その世界と繋がってくるのかなと思っています。その世界を広げるためにも図書館の本の幅を広げてほしい、それに加えてSTEAM教育とかでも知識だけでなく、芸術を知るところで、芸術や文化に触れる機会が少ないので、そういったものを増やしてもらえたらなということです。

小さい子が子どもクラブとか一緒に遊べるような場所があったらいい。

次に文化の融合ですね。今 三地区の特色がある。今回学校が統合されるので、新しい文化の融合。地域ごとの課題の多様性を学ぶチャンスにもなりますし、伝統芸能や祭りを最大限に活かす。通学する子供の姿が見られないっていうのは、やっぱり寂しいっていう気持ち強い、地域、お年寄りとの交流ができるんじゃないか？ということです。

ウェルビーイング、まずは支援が必要な子に対応する。優しい土台があるからこそ明るく育てる。他町村との繋がり只見線で外ともつながる。英語とか英会話の充実。親の心配としては複式学級が解消されるので、友人関係の固定化、上下の学年との面倒見たり見られたりの関係が分断されてしまわないようにしてほしい。

教育長…いろいろな意見を出していただいた。学力向上というのはもちろんだが、やはり今これから求められている非認知能力、いわゆる人間として、人としてどう育てていくのかという思いが現れたのかなと思います。新たな学校づくりということの思いはいわゆる人づくりですし、それが地域づくりにつながっていくんだなということを感じさせていただきました。こういった思いをどういった学校づくりに活かしていくか、これから具体的に詰めていければなという風に思います。非常に参考になる只見ならではの学校づくりに行かせるものだと思います。

4 その他

- ・今回は、8月18日(火)9:00～朝日公民館において専門部会と合同で実施します。
- ・町のホームページのトップページに認定こども園の整備についてのことと、町立小学校総合関係ということで、バナーを設置いたしました。クリックしていただくと、今現在この皆さんでやっっている学校づくり委員会の内容とか、こども園の整備の内容が見られるように開設しましたので、ぜひそちらの方もみていただきながら、次回ご意見いただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上